

先生方御退職のお言葉

長年の思いを語る



発行所
東京薬科大学 新聞会
責任者
矢内 光

号外

今年度は薬学部と生命科学部合わせて四人の先生が退職される。それに伴い薬学部では先生方の最終講義が予定されている。それぞれの日時は以下の通りである。

三月十日(金) 一一一教室
田中先生 十時から
金谷先生 十二時から
宿前先生 十五時から
先生方の最終講義を聴き是非足を運んで欲しい。

薬剤製造学教室

金谷芳雄先生

現在、薬剤製造学を担当されている金谷芳雄先生は本学で四十年間教鞭を執られた。先生は昭和三十一年に本学を卒業し、同年薬品分析化学教室の助手として着任された。京都大学への内地留学の後、四十一年に薬剤製造学教室に移籍された。その後ミシガン大学への留学を経て五十八年より本学の教授を務められてきた。先生の研究課題は主に固形剤の製造技術、物性の解析、新規DDS製剤や院内製剤の開発等であった。

次に先生の退職後について伺った。
「二、三年かけて、趣味の写真を撮りながら日本全国を廻り、旧知の友を訪ねたいと計画しています。そしてCD-ROMで写真集を作る予定です。また、多少の知識と趣味を生かしてボランティア活動にも参加したいですね」
最後に、学生に対して一言メッセージを頂いた。
「何の為に」をいつも自分に問いかけながら勉学し、研究して下さい。この研究は何の為にするのか。くれぐれも研究の為の研究にならないように。どうか、目的を明確にして大いに活動して下さい」

総合医療薬学講座

田中依子先生

田中依子教授は、薬学部で薬物治療学を受け持つおられた。先生は本学の薬学部を卒業し、東京大学医学部付属病院で研修後、虎の門病院に勤務された。しばらくして病院を退職してベンシルバニア大に留学し、病院に復職後、五年前に本学へ移られた。
先生は総合医療薬学講座において、医療機関や海外の大

学機関との共同研究を通じて研究資料を収集された。また臨床と基礎薬学の接点として主に、薬学的ケア(PC)教育、薬物治療、医療品情報に関して幅広く研究し、国内外学会で発表されている。
本学在学中の思い出について伺った。
「五年という短い間でしたが学生諸子の若さとエネルギーに溢れた考え方に触れ、楽しく過ごすことができました」
最終講義では、患者や地域社会にPCを行うことを目的として、薬学に携わる我々は何ができるのか、薬物治療、PC教育、医療品情報等を含め、お話になる。
最後に学生に対して一言お願いした。

「東薬の学生は皆、頑張っていると思います。ですが例えば医療品について学ぶとき、各科目の講義内容を科目ごとにただ覚えるのではなく、きちんと理解するように、そしてその知識を一年生は一年生なりに、四年生は四年生なりに、それぞれのレベルで自力で統合・応用して医薬品について考えられる学生になって下さい。社会は、自分で考えて問題を解決していくことの出来る学生を望んでいます」

第一微生物学教室

宿前利郎先生

宿前利郎教授は、昭和四十四年に男子部の微生物学教室助手として採用され、本学に三十年間も勤務された。

先生の研究は、菌類から得られる多糖成分の構造解析に始まり、菌類から得られる高分子成分の構造とその生物活性へと続いた。そして、この十数年は β - $(1\rightarrow3)$ - γ -グルカンの構造とその生物活性を中心に研究されていた。

次に本学在職中の思い出について語って頂いた。

「心に残ったことは二点あります。一つは東薬が今のキャンパスに移転したとき、男女両学生が一堂に会するのを眺めたことです。採用されてから七年間、新宿柏木の男子部キャンパスで過ごしたので、女気が殆どありませんでした。そのため移転したキャンパスで初めて女子部の実習を担当したときは、大変うらたえしました。二点目は、五、六年前に学生部長を務めたときに各

部門の学生達と気兼ねなく交流(単なる酒飲みとは思わないで下さい)が出来たことです。そのおかげで規定の場所以外での学内禁煙や公式の場での一気飲みの禁止が実施出来ました」

最後に学生に対して一言頂いた。

「人生は他の誰のものでもありません。自分自身のもので、すから、何をやってもよろしいと思います。ただし結果は全て自分の責任とし、他人のせいにはしないことです」

尚、最終講義の内容は未定であるが、三十年間の教育・研究を通して培ってきたことなどを話されるそうである。

環境衛生化学研究室

松原チヨ先生

松原チヨ先生は平成六年から五年間、教務担当として生命科学部の新入生に対する修学上のガイダンスをされていた。二年生以上の方々にとって、壇上で熱心に話された先生の姿が印象強いのではないだろうか。

先生は本学薬学部を卒業され、薬学部の助教として勤務された。生体関連物質や環境関連の微量物質の分析法の開発に関する研究に携わり、生命科学部創設に伴って環境衛生化学研究室に移られた。

「分光分析法の高感度化のケミカルソフト」、「高分子媒体を用いる分離科学」をテーマに研究を進めて来られ、特に生命科学部では、環境ホルモンの計測や、環境保全のための水浄化法の開発などにも力を注がれた。

今回、退職にあたり先生にお話を伺った。インタビューは終始和やかに進み、女性研究者としての苦労についてお聞きした際も、気さくに答えて下さった。

「中学生の頃、女性研究者についての婦人公論の記事を読んで感銘を受けた覚えがあります。当時女性研究者は男性の五倍も十倍も努力しなければいけないという意識があったようです。私はそうした先人が道を切り開いてくれたお陰で、それ程苦労したとは思いません。とはいっても男社会である事は事実ですから、これからの女性科学者もそれなりの努力は必要でしょう」最後に学生へのメッセージ

緊急提案

を頂いた。
「最近、若い人の中には目立ちたる反面、周囲の人々と同じ事をしていないと不安を感じてしまいう人が多いように思います。学生の皆さんは、自分で考えて自分で行動できる人になって下さい」

十二月一日に平成十一年度後期学生大会が行われた。今回は以下二つの自治会からの報告が緊急提案として取り上げられた。

一、百台駐車場の
違法駐車について

二、スクールバスについて
最近、正門前の学部生及び大学院生用指定駐車場(百台駐車場)に違法駐車が目立っている。中央ホールに警告する掲示を出しているが、同一の車両が違法駐車を繰り返しているのが現状である。学校側と話し合った結果、今後このようなことがある場合は車両ナンバーを記録し、さらに車両の写真を撮影して警告する。それでもなお駐車を続ける場合は車輪止めをかけるということに決定した。

また、スクールバスについては、以前から乗車時の割り込みが問題になっている。原因は学生のマナーの悪さだけでなく、ピーク時のバスの本数の少なさにもあると考えられるため、自治会は学生部との話し合いを行った。その結果、学校側ではバスのダイヤの改正、路線バスの導入を考えていくとのことである。

この内、違法駐車の問題に対して、学生から次のような意見が出された。
一、有料駐車場の料金が低いことも違法駐車増加の原因であると考えられる。駐車料金をもっと安くして欲しい。
また、この他にも学生から以下の意見が提案された。

二、駐車券を駐車場でも買えるようにして欲しい。
三、新部室棟に冷水機とゴミ箱を設置して欲しい。
四、旧部室棟に冷房がないので設置して欲しい。
以上のうち一、二、四の緊急動議が承認され、学生の意見として大学に提案される事となった。

今回は学生の意見が数多く出されたため、活発な学生大会となった。今後も多くの学生が積極的に参加し、大学がより良いものになることを期待したい。